

外来者評価による湯けむり景観の保全に関する課題の導出（その2）

—重要文化的景観の保全活用に関する研究—

正会員 ○牛 苗\*<sup>1</sup> 同 姫野 由香\*<sup>2</sup> 同 佐藤 誠治\*<sup>3</sup>

同 松本 彩花\*<sup>1</sup> 準会員 野本 昂\*<sup>4</sup>

7.都市計画—6.景観と都市設計 都市計画  
文化的景観 外来者 湯けむり 温泉資源

1 研究の背景と目的

国の文化財保護法より、地域における人々の生活又は生業及び当地域の風土により形成された文化的景観の中でも特に重要でその保全の措置が取られているものが「重要文化的景観」と選定される。2012年9月、大分県別府市の鉄輪・明礬温泉地区（以下、鉄輪、明礬とする。）における世界的にも希有な「湯けむり景観」は「重要文化的景観」として選定された。

この地域景観を創出する住民の生活・生業を支える外来者の温泉資源の利用は、「湯けむり景観」を形成する重要な要素といえる。つまり、「湯けむり景観」を保全するため、外来者の温泉資源の利用に関する課題を明らかにすることは有用な知見となる。

そこで、本稿その2では、外来者に関するアンケート調査により、外来者の温泉資源利用の傾向を把握、温泉資源利用に関する課題を導出し、「湯けむり景観」の保全の方向性を示すことを目的とする。

2 研究の方法

本研究では、両地区における外来者の温泉資源の利用傾向を把握するために、外来者を対象とし、アンケート調査を行った。その調査結果より、外来者の温泉資源の利用に関する課題を導出する。

アンケート調査方法として、鉄輪・明礬に訪れた外来者から無作為抽出を行った。調査の実施概要は表1に示す。また、調査項目は大きく3部分構成となっている（表2）。第一部分では外来者の属性・来訪目的・交通手段等を尋ねた。第二部分では外来者の温泉利用について「どのような温泉資源を利用したか」を尋ねた。ただし、利用した温泉資源については複数回答を

表1 アンケート調査の実施概要

調査地区	調査日・時間帯	回答した部数
鉄輪温泉地区	2013年11月26日(14時～17時)	33部
明礬温泉地区	2013年11月27日(14時～17時) 2013年12月1日(14時～17時)	20部

可能とした。温泉資源を再び利用するには、どのような「施設・工夫・サービス」があると利用しやすいか等、温泉利用についての課題や要望の自由記述欄を設けた。また滞在中、印象に残った景観構成要素も尋ねた。ただし、印象に残った景観構成要素は複数の選択

可能とした。第三部分では重要文化的景観の認知度と効果的な周知方法は三つまでが選択できる。ただし、重要文化的景観の周知方法は三つまで選択可能とした。

表2 アンケートの内容構成

I アンケート記入者について	
1. 性別	
2. 年齢	
3. 来訪目的（一つのみ）	
4. 一緒に来られた人	
5. 来訪回数	
6. 来訪期間	
7. 住まい都道府県	
8. 交通手段（複数回答可）	
II 滞在中の温泉利用について	
1. 利用した温泉資源（複数回答可）	
2. 温泉資源利用するための「施設・工夫・サービス」を自由記述	
3. 滞在中で印象に残ったもの（三つまで回答可）	
III 重要文化的景観について	
1. 鉄輪・明礬の重要文化的景観の選定を知っているか	
2. 効果的な周知方法（三つまで回答可）	

3 アンケート調査による外来者の温泉利用実態

3-1 外来者の年代別の割合

図1にアンケート回答者の年齢を示す。鉄輪の33サンプルのうち、60代の回答者が最も多く、33.3%を占めている。次いで、30代が27.3%である。明礬の20サンプルのうち、20代の回答者が最も多く、45.0%を占めている。次いで、30代、50代と60代が同じ割合で15%である。以上のことより、鉄輪が子供を持つ30代の若い夫婦又は60代の老夫婦の回答者が多いこと

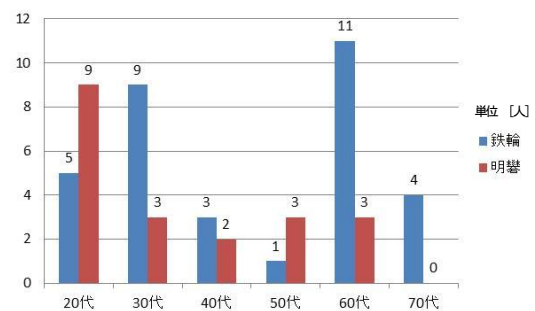


図1 回答者の年齢構成

Deriving the Issues about Conservation of Cultural Landscape of Hot Spring Steams by Visitors' Evaluation (2)

-A Study on Conservation and Utilization of the Important Cultural Landscape -

GYU Myo, HIMENO Yuka, SATO Seiji, MATSUMOTO Ayaka, NOMOTO Subaru

表3 年齢ごとの来訪目的

単位：人

地区	年齢	来訪目的							合計	一緒に来た人			
		入浴 (立ち寄り)	買い物	地獄めぐり	まち歩き	湯治 (長期滞在)	地獄蒸し 体験	その他		一人で	家族と	友人と	団体
鉄輪	20代	2	0	2	1	0	0	0	友人に会う 友人との旅 病院 足湯	5	0	0	5
	30代	3	0	3	2	0	1	0		9	1	4	4
	40代	1	0	1	1	0	0	0		3	1	2	0
	50代	0	0	1	0	0	0	0		1	0	0	1
	60代	1	0	3	3	0	0	4		11	1	8	2
	70代	4	0	0	0	0	0	0		4	0	4	0
	合計	11 (33.3%)	(0.0%)	10 (30.3%)	(21.2%)	0 (0.0%)	1 (3.0%)	4 (12.1%)	33	3 (9.1%)	18 (54.5%)	11 (33.3%)	1 (3.0%)
明礬	20代	6	0	1	0	0	1	1	プリン	9	0	3	6
	30代	2	0	1	0	0	0	0		3	0	2	1
	40代	2	0	0	0	0	0	0		2	0	0	2
	50代	3	0	0	0	0	0	0		3	0	1	2
	60代	1	0	0	2	0	0	0		3	0	3	0
	70代	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0
	合計	14 (70%)	(0.0%)	2 (10.0%)	(10.0%)	0 (0.0%)	1 (5.0%)	1 (5.0%)	20	(0.0%)	9 (45.0%)	11 (55.0%)	0 (0.0%)

がわかる。また、グラフの傾向を見ると明礬の方が若い世代の回答者が多いといえる。

### 3-2 外来者の来訪目的

表3は外来者の来訪目的を示す。鉄輪において、来訪目的ごとの割合としては、「入浴（立ち寄り）」が33.3%、次いで「地獄めぐり」が30.3%を占めている。特に70代の回答者は全員「入浴」と回答した。60代の来訪目的のその他として「友人に会う」、「友人との旅」、「病院」と「足湯」等多様な目的で来訪していることがわかる。

明礬の来訪目的として最も多いのは、「入浴（立ち寄り）」、70%である。「地獄めぐり」、「まち歩き」、「地獄蒸し体験」などの割合が10%以下であり、比較的少ないことがわかる。また、20代のうち、訪問目的は「地獄蒸しプリン」と回答した者がいた。

両地区においても「買い物」と「湯治」と回答した者がいないことより、「買い物」のために両地区に行くのが少ないことがわかる。また、鎌倉時代より湯治が盛んであった両地区において<sup>注1)</sup>、湯治客の数が減少していることもわかる。既往研究<sup>1)</sup>より、鉄輪の生業を支えた湯治客は長期滞在のために、「貸間旅館」に宿泊、貸間旅館の近隣の小売商店を利用し、必要な生活用品を購入していたことがわかっている。湯治客数の減少は、「貸間旅館」と「小売商店」の存続に大きな課題となっていくと考えられる。

「一緒に来た人」についての回答をみると（表3）、鉄輪では、「家族と」が54.5%、次いで「友人と」が33.3%を占めている。明礬において、「友人と」が55.0%、「家族と」が45.0%であることがわかる。年齢別にみると、20代は「友人と」と回答する割合が多く、鉄

輪では33%、明礬では55%を占めている。60代は「家族と」と回答する割合が最も高く、鉄輪では54.5%、明礬では45.0%を占めている。また、「団体」と回答する割合が3.0%を占めているが、団体外来者は、自由に時間を調整できないため、アンケート調査の回答サンプルとして得にくかったも影響している。

### 3-3 来訪中の温泉資源の利用傾向

表4に外来者の温泉資源の利用方法ごとの割合を示す。鉄輪では、最も行われた温泉資源の利用方法は、「温泉に入った」が48.1%、次いで、「地獄（観覧施設）に行った」が20.4%を占めている。明礬では、最も行われた温泉資源の利用方法は、「温泉に入った」が76.2%、次いで、「地獄釜を使った」が9.5%である。以上のことより、両地区において、「温泉に入った」外来者の数が最も多かったことがわかる。また、鉄輪の外来者は明礬と比べ、温泉資源を多様に利用する傾向が確認できた。

表4 滞在中利用した温泉資源

単位：人

地区	年齢	利用した温泉資源							合計
		温泉に 入った	地獄釜 を使った	湯の花 を買った	地獄 (観覧施設) に行った	温泉水 を買った (飲用・美容)	利用して ない	その他	
鉄輪	20代	3	0	0	2	2	0	0	7
	30代	7	3	0	3	2	1	0	16
	40代	1	1	0	2	0	0	0	4
	50代	1	0	0	1	0	0	0	2
	60代	10	2	3	3	3	0	0	18
	70代	4	1	1	0	1	0	0	7
	合計	26 (48.1%)	7 (13.0%)	4 (7.4%)	11 (20.4%)	5 (9.3%)	1 (1.9%)	(0.0%)	54
明礬	20代	8	0	0	1	0	0	0	9
	30代	3	1	0	0	0	0	0	4
	40代	2	0	0	0	0	0	0	2
	50代	1	0	0	1	0	0	0	2
	60代	2	1	0	0	0	1	0	4
	70代	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	16 (76.2%)	2 (9.5%)	0 (0.0%)	2 (9.5%)	0 (0.0%)	1 (4.8%)	(0.0%)	21

### 3-4 観光地としての温泉利用継続の課題

アンケート調査より、両地区における外来者の再び温泉資源を利用する際の意見や要望を表5にまとめた。

鉄輪では、収集された情報をそれらの内容によって、「温泉資源の利活用」、「アクセス」、「その他」のように分類した。そのうち、「温泉資源の利活用」に関する意見や要望が最も多く、特に温泉資源の多目的利用や、温泉施設案内の整備などの要望がよくみられる。明礬では、収集された情報を「温泉資源利活用」、「アクセス」、「その他」のように分類した。そのうち、特に駐車場の整備に関する意見が最も多く、全体の30%を占めている。

また、両地区において、共通の課題は「サービス向上」及び「ルートガイド」、「交通の便」等であることがわかる。

表5 観光地としての温泉資源利用に関する課題

地区	カテゴリー	意見の内容	
鉄輪	温泉資源の利活用	サウナ利用	
		無料の足湯の施設があるといい	
		湯けむりを浴びる(加温用)	
		発電に利用する	
		温泉資源を料理に活かす	
	施設案内充実	共同浴場の説明や立ち寄り可の浴場の説明を分かりやすく示す	
		各共同温泉の特徴を分かりやすく示す	
		飲用は飲むことの利点を示してあげる	
		各料金をHPに掲載してほしい	
		タオル等の貸出	
サービス向上	食べものが高い、大きい		
	道のり分数知りたい		
アクセス	ルートガイド	看板を少し分かりやすく ルートマップを充実させてほしい	
	交通の便	公共交通の充実	
	その他	店舗要望	喫茶店があると立ち寄りやすい 旅館が営業し続けてほしい(2名)*
地域取組		地元の人とお話したい イベントの開催	
宣伝方法		本で面白いと思った 旅番組で鉄輪を取り上げる	
温泉資源の利活用		いいタオルがあると利用しやすい 湯が高い	
明礬	アクセス	駐車施設整備	駐車場が狭い(5名)* 駐車場を整備してほしい
		ルートガイド	案内図やお勧めマップがあるといい
		交通の便	バスの路線が分かりにくいから訪れにくい
		その他	雰囲気がいい

\*(): 同じ意見の人数

### 3-5 滞在中で印象に残った景観構成要素

両地区を対象とした既往研究において、重要な景観構成要素として抽出された要素のうち、外来者に印象に残った要素の出現回数を表6にまとめた。さらに、これらの割合の3位までの要素の分布を地図上に示した(図2, 図3)。

表6より、鉄輪では外来者に最も印象に残った要素は「地獄」が19.0%である。ついで、「気液分離装置」が14.3%、「地獄釜」が13.1%を占めているこ

とがわかる。図2に、鉄輪にあるすべての「地獄」、「気液分離装置」と「地獄釜」を地図上に示した。色の濃い部分は、最も人に印象残った要素が分布する場所である。図2より、鉄輪では、昔の商業施設である「旅館」、「小売商店」、「共同温泉」に集中している範囲は人に印象を残った「地獄釜」、「気液分離装置」が多数分布している。しかし、最も外来者に印象を残った地獄は地区の東側に分布することがわかる。

明礬では、最も印象に残った要素は「地獄」が23.7%である。次いで、「共同浴場」が15.8%、「気液分離装置」が13.2%を占めていることがわかる。図3に、明礬にあるすべての「地獄」、「共同温泉」と「気液分離装置」を地図上に示した。最も印象を残った「地獄」は地区の中央部分に分布しており、明礬の特徴である「湯の花」の採取場に集中している。既往研究<sup>2)</sup>において、「湯の花小屋」は明礬の特徴的な景観構成要素であるが、10.5%に留まっており、印象に残った景観構成要素として選択されないことがわかる。

表6 滞在中で印象に残った景観構成要素の割合

地区	年齢	印象に残ったもの												合計		
		共同浴場	旅館	小売商店	お寺神社	温泉の遺構跡地	神社や公園の石碑	石置	地獄	地獄釜	気液分離装置	樹木	湯の花小屋		猫	湯けむり
鉄輪	20代	0	0	2	2	0	2	2	0	4	0	0	4	0	0	0
	30代	4	1	1	0	0	1	0	4	5	5	2	0	2	1	0
	40代	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0
	50代	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	60代	1	4	1	2	0	0	3	6	2	2	0	2	0	0	0
	70代	1	1	0	0	0	0	2	3	1	0	1	0	2	0	0
	合計	7(8.3)	7(8.3)	4(4.8)	4(4.8)	2(2.4)	1(1.2)	6(7.1)	16(19.0)	11(13.1)	12(14.3)	2(2.4)	4(4.8)	6(7.1)	2(2.4)	0
明礬	20代	4	0	0	0	0	0	4	3	2	0	2	0	1	1	
	30代	0	1	1	2	0	1	0	1	1	0	0	2	0	0	
	40代	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	50代	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	
	60代	0	1	0	0	0	1	0	1	0	3	0	0	0	0	
	70代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	合計	6(15.8)	2(5.3)	1(2.6)	2(5.3)	0	2(5.3)	0	9(23.7)	4(10.5)	5(13.2)	1(2.6)	4(10.5)	0	1(2.6)	1(2.6)

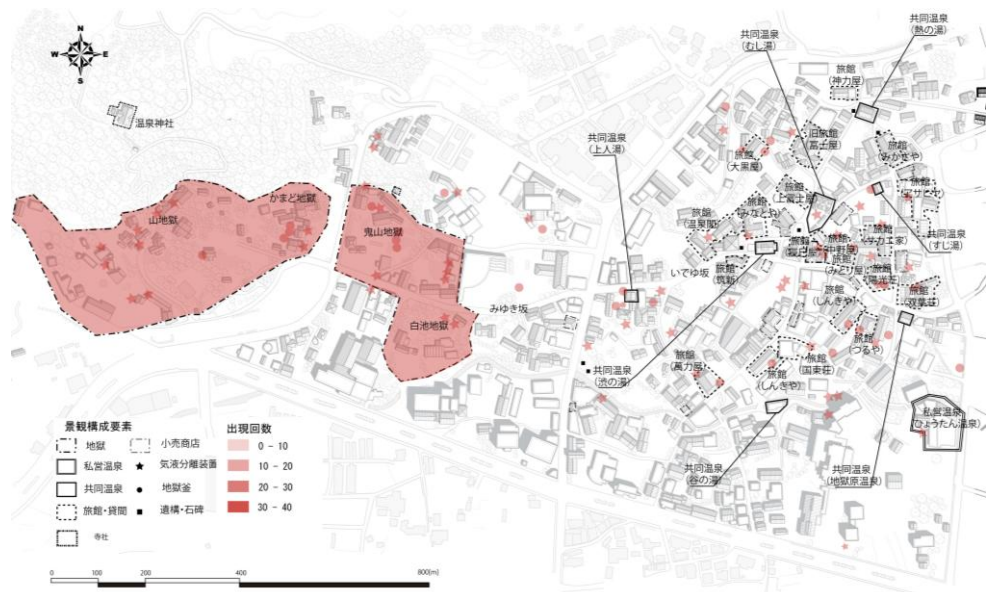


図2 滞在中で印象に残った景観構成要素(鉄輪温泉地区)

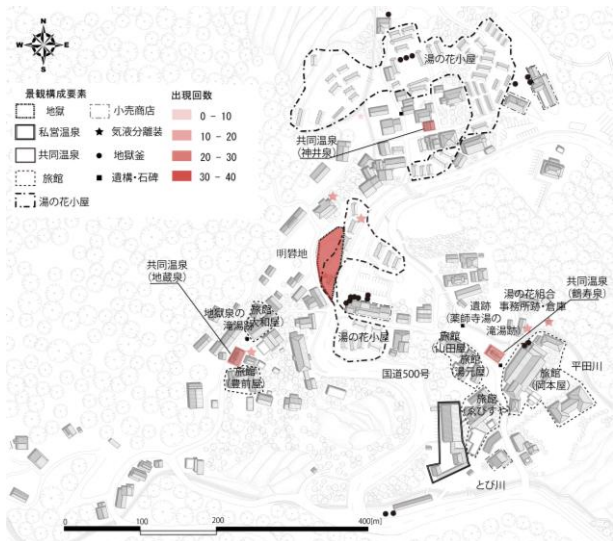


図3 滞在中で印象に残った景観構成要素（明礬温泉地区）

## 4 外来者の重要文化的景観の周知

### 4-1 重要文化的景観の認知度について

鉄輪・明礬温泉地区の湯けむり景観が重要文化的景観に選定されたことに関する認知度を図4に示す。鉄輪では、「知っていた」と回答した者の割合が27.3%、明礬では25%を占めていることがわかった。つまり、両地区において、70%以上の外来者が重要文化的景観に選定されたことを「知らない」と回答した。このことから、別府市の「湯けむり景観」の価値及び貴重さは大勢の人が認識できていないことがわかった。文化的景観は国の重要な文化財であり、その活用の一環として、外来者に理解頂くことは重要であり、保全に取り組むためにも重要文化的景観の価値を人々に伝えることは重要な課題となる。

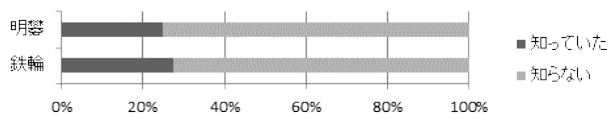


図4 重要文化的景観の認知度の割合

### 4-2 重要文化的景観の周知方法

外来者による効果的であると挙げられた周知方法は表7に示す。表7より、鉄輪では、「テレビ」の回答率が最も高く、23.8%である。次いで、「WEB サイト」が16.3%、「雑誌」が15.0%である。明礬において、「テレビ」の回答率が最も高く、33.3%である。次いで、「雑誌」が20.5%、「WEB サイト」が17.9%である。以上

の結果より、「テレビ」、「WEB サイト」と「雑誌」の割合の差が小さく、いずれも有効な周知方法であると考えられる。

表7 重要文化的景観の周知方法について

地区	年齢	効果的な宣伝方法								単位:人(%)	
		テレビ	ポスター	新聞	ラジオ	Web サイト	ロコミ	雑誌	イベントの開催	まち歩きガイド	
鉄輪	20代	2	0	1	0	4	1	2	1	1	
	30代	4	2	2	0	4	2	4	3	3	
	40代	1	1	0	0	1	0	1	0	1	
	50代	1	0	0	0	1	0	0	1	0	
	60代	8	1	3	2	3	3	3	2	2	
	70代	3	0	2	0	0	0	2	1	1	
合計	19(23.8)	4(5.0)	8(10.0)	2(2.5)	13(16.3)	6(7.5)	12(15.0)	8(10.0)	8(10.0)		
明礬	20代	6	1	1	0	5	1	3	3	1	
	30代	2	0	0	0	2	0	2	0	1	
	40代	1	0	0	0	0	0	1	0	0	
	50代	3	0	0	0	0	0	0	0	0	
	60代	1	1	1	0	0	0	2	1	0	
	70代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	13(33.3%)	2(5.1)	2(5.1)	0(0.0)	7(17.9)	1(2.6)	8(20.5)	4(10.3)	2(5.1)		

## 5 総括と今後の課題

本稿(その2)では、外来者におけるアンケート調査より、温泉資源利用に関する課題を導出した。まず、外来者の来訪目的は「入浴(立ち寄り)」が中心で、「湯治」は確認できず、鉄輪の「貸間旅館」と「小売商店」の存続に大きな課題であることが改めて理解できた。さらに、両地区における温泉利用継続の課題として、鉄輪では温泉資源の多目的利用や、温泉施設案内の整備などの課題が挙げられ、明礬では、駐車場の整備に関する課題が外来者にあげることがわかった。また、重要文化的景観の認知が低いことから、別府市の「湯けむり景観」の価値及び貴重さを人々に伝えることは重要な課題であることも明らかとなった。

本稿(その2)では、「湯けむり景観」保全の方向性を示したが、具体的な保全方針(どちらの施設どのように改善するか)はまだ明らかにしていない。今後は外来者、地区住民及び専門家の各温泉施設の利用評価はアンケートやヒアリング調査により、具体的な保全方針を検討する必要がある。

【補注】

注1) 文献資料調査より得られた情報。

【参考文献】

- 森下泰敬, 佐藤誠治, 姫野由香「景観構成要素と生活・生業の関係性の導出—別府市鉄輪・明礬温泉地区の重要文化的景観指定に関する研究—」日本建築学会九州支部研究報告第50号1, pp.309~316, 2011.3
- 牛苗, 松本彩花, 森下泰敬, 姫野由香, 佐藤誠治「人々の生活・生業に関わる温泉資源の利用と景観形成の関係性—別府市鉄輪・明礬温泉地区の重要文化的景観指定に関する研究—」日本建築学会九州支部研究報告第52号1 pp.289~293, 2013.3
- 別府市教育庁生涯学習課「平成20年度湯けむり景観保存管理のための専門調査報告書」2009.3

\*1 大分大学大学院工学研究科博士前期課程  
 \*2 大分大学工学部福祉環境工学科・助教 博士(工学)  
 \*3 大分大学工学部福祉環境工学科・教授 工学博士  
 \*4 大分大学工学部福祉環境工学科 学部生

Graduate Student, Oita Univ.  
 Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng. Oita Univ., Dr.Eng  
 Professor, Dept. of Architecture, Faculty of Eng. Oita Univ., Dr.Eng  
 Undergraduate Student, Oita Univ.